店頭から「こんにちは」
第87回

首を動かしただけでめまいがする困った事態
からだを冷やさずに対応を

宮川薬局のファンになっていただいたご夫婦がいらっしゃいます。
お話しているとき、めまいがヒドいという姪っ子さんの話題になったのですが――。

今にも倒れそう…

姪っ子さんを、「今度、連れてきます」といい、帰られた１週間後のことです。

叔母さんに手を引かれ、姪っ子さんは自動車から下り、今にも倒れそうな状態でした。やっとのことで、椅子に腰掛けたのです。

首を動かすとふらつくので、横を見るときは、腰から、からだをねじって、横を向く状態でした。

近くの内科に通って、めまいのおクスリと、吐き気止めを出されたものの、改善しないとのこと。

しかも、次のようなことも分かりました。

朝起きたとき、全身が痛むため、漢方薬が処方されている。１年前、脳のMRＩを撮り、異常なしといわれた。それを聴くまでは、脳腫瘍があるかも知れないと思ったほど、症状はヒドい。最高血圧は80くらいで極めて低く、冷え症のため、いつも手足が冷たい――。

５年前に初めて、めまいがしたといいます。まっすぐ歩いているつもりでいても、右に曲がっていってしまうとも。今回のめまいは少し違い、「からだを後ろに反らした状態が、まっすぐに立っている状態に感じられる」とか。

ツボ療法と漢方薬を試す

肩、肩甲骨の内側、手にある合谷・手の三里というツボを触ると、大変痛がりました。からだを温める膏薬を貼ると、「とても気持ちがいい」とのこと。

そこで、叔母さんにツボを教えて、ツボに膏薬を貼ってもらいました。叔母さんも、肩を触ってみると、「何、これ、パンパンね」と驚くほどに凝っていたのです。

いずれにせよ、しばらくすると、手がポカポカに。

末梢血流を改善する漢方薬を服用してもらうことにもしました。においを嗅いでもらうと、「うっ、苦そうなにおい」との感想を。オブラートに包んで、のんでもらうことにしました。

とはいえ、本当はそのまま、口に含むほうがいいのです。香りが鼻に効いて、舌下からも吸収されて効くので、慣れてきたら、そのままでのんでもらうことに。

コーヒーのにおいもイヤで、紅茶ものめず、水をのんでいるとか。

からだを冷やすとダメなので、冷たい水はやめてもらい、ほうじ茶かウーロン茶にすることともお伝えしました。「果物は食べないこと」とも指示を。

確かに主訴は、めまいと吐き気ですが、からだ全体の状態を見て、何がその症状を引き起こしているのかを考えるべきでしょう。

私は、おクスリだけでなく、食べ物や、普段の生活で、注意すべきこともお話ししました。

帰るころには笑顔が出ていたので、「きっと快方に向かうのでは」と思った次第です。

宮川薬局（宮城県仙台市）代表
薬学博士・薬剤師
みやがわとしじ
宮川季士先生

プロフィール

1976（昭和51）年、東北薬科大学（現・東北医科薬科大学）卒業。'78（同53）年、同大学大学院修士課程修了。'87（同62）年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「季節の変わり目ですね。健康にご留意を」

【その後のこと】この姪っ子さん、その後、お母さんと来局を。元気になられ、「ありがとうございました」と、お話しして帰られました。